

千葉 何でも大発見

千葉県市原市立辰巳台西小学校 鶴岡昌昭

1. はじめに

4年生の社会科で、自分たちの県について学習する。地形の特色やおもな都市の位置や交通網、特色ある地域の人々の生活や産業等を調べて、県のようにすを理解し、県への誇りをもつことが目的である。この単元で地図帳を有効に使うって学習を行いたい。地図帳にはさまざまな情報が含まれているので、はじめの導入部分での活用を考えてみた。子どもたちのもっている県に対するイメージをふくらませながら学習を進められたらと考えた。

2. 千葉県はどんな県？

学習のはじめに、まず「千葉県」についてどんなイメージを子どもたちはもっているかを知るために、これまでの学習や子どもたちからの生活経験から、話し合いをはじめた。次は実際に子どもたちからの発表をまとめたものである。

- ①観光スポット……東京ディズニーランド (TDL)、千葉県こども国、マザー牧場、鴨川シーワールド、千葉動物公園など
- ②市町村……市原市、千葉市、木更津市、習志野市、船橋市、浦安市など
- ③交通関係……内房線、京成線、小湊鐵道、アクアライン、高速道路、成田空港など
- ④田畑で作っているもの……米、野菜、なし、落花生
- ⑤工場で作っているもの……板ガラス、石油、船
- ⑥山や川など……養老川、村田川

これらの意見をさらに充実させたり、子どもたちに驚きを与えたりするために、帝国書院『小学生の地図帳（最新版）』（以下、地図帳）のp.59～60から、①全国1位の入場者数のTDL、②全国6位の県の人口、③全国1位の人乗り降りする空港、④全国2位の農業生産額、⑤全国8位の工業生産額である

こと、を話すと騒然としてくる。教室のどこからも「すごい」「すごい」の連発となった。学習のはじめに大きなインパクトを与えることによって、自分たちの住んでいる県のことをもっと詳しく知ろうとする動きがでてくる。この勢いを消さないうちに、次の段階へと進めた。

3. 「千葉自まんマップ」づくり

県の白地図に、自分の好きなテーマを①～⑥中から選んで表していった。白地図に地図帳のp.34、36～37を使って表していく。ある子は、県全体に線路が通っていることや高速道路が輪のようになっていること、空港の位置を自慢げにかいていった。「空港の近くに高速道路があるよ」とつぶやいていた。田畑で作っているものを選んだ子は、「たくさんの野菜や果物があるね」と気づいていた。家庭で、観光スポットを調べた子もいた。

4. おわりに

子どもたちのもっているイメージを大切に、話し合いを行い、さらにふくらませていった。次に自分のテーマに沿って地図帳を使って調べるようにしたもので、子どもたちの意欲が違っていた。全国で〇位というのも、子どもたちに大きなインパクトを与えたようだ。その後の展開でも子どもたちの学習意



帝国書院『小学生の地図帳（最新版）』p.36

欲は持続し、千葉県への愛着もわいたようだ。

「わたしたちの県」の学習をとおして身につけた地図帳の活用法を、日本全国の学習をするときに応用できるようになってほしいと思う。そのためには常に地図帳をかたわらに置いて、使えるような環境や学習方法を考えていきたい。